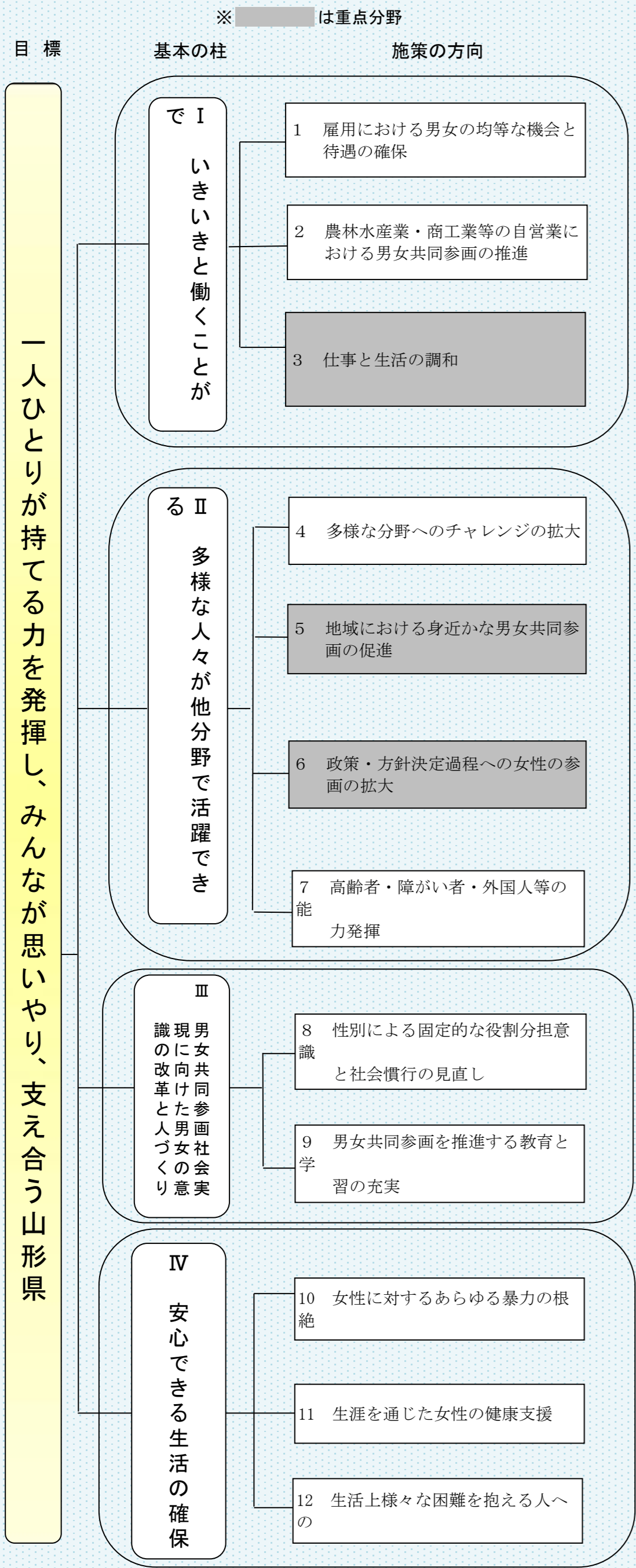


現行計画の体系



計画策定の背景

【社会情勢の変化】

- ・少子化のさらなる進展と人口減少社会の到来
- ・超高齢化社会の到来により男女ともに介護を担う人が増加
- ・経済活性化に向けた女性の活躍の期待
- ・東日本大震災の発生

【男女共同参画審議会からの意見】

- ・男性の育児参加について企業側の意識改革が必要。
- ・市町村における男女共同参画の取組みに格差がある。
- ・女性の地域参画には男性の家事・育児への協力が必要。

【市町村からの意見】

- ・自治会・PTA活動における男女共同参画の促進が必要。
- ・まちづくり・観光・防災・環境・農業分野等における男女共同参画の促進が必要。
- ・地域の意識改善のための機運づくりが必要。

【地域各種団体からの意見】

- ・男女共同参画について、県による更なる啓発が必要。
- ・政策・方針決定過程における女性の参画を進め、女性の意見がもっと反映されるようにすべき。
- ・子育て中の女性も活躍できる社会とするためには、男性も主体的に家事・育児に参画するべき。

【H26年度県民意識調査結果】

- ・性別による固定的な役割分担意識について、「夫は仕事、妻は家庭を守る」という考えには、男女とも「反対」が多いものの、男女の地位については、依然として男性が優遇されていると考えている人の割合が高い。
- ・男女共同参画社会を実現するうえで重要なことは、「働きやすい職場環境づくり」と「男性の家事・育児参加」と考える人の割合が高い。
- ・働きながら看護・介護をする場合に必要な支援として、「企業における支援」が必要と考える人の割合が高い。
- ・施策への女性の意見反映について、「反映されていない」と感じる人の割合が高い。

新たな計画の方向性

□男女のさらなる意識改革の推進

いまだに「男女共同参画社会」の概念が十分浸透しておらず、性別による役割分担意識が根深く残っているため、一層の意識改革の推進が必要。

□男女がともにいきいきと働くことのできる環境づくり

男女ともに仕事と子育て・介護等を両立しながらいきいきと働き続けられるよう、働き方の見直しやワーク・ライフ・バランスの推進、就業支援などの環境整備が必要。

□多様な人々が活躍できる社会づくり

将来にわたって持続可能で活力ある地域社会の実現に向け、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、多様な人材がその個性と能力を十分に発揮し、参画することが必要。

□貧困やDVなど困難を抱えた人への対応

貧困や高齢、障がい等困難を抱えた人が安心して暮らすことのできる環境整備が必要。

国の第4次計画における考え方など

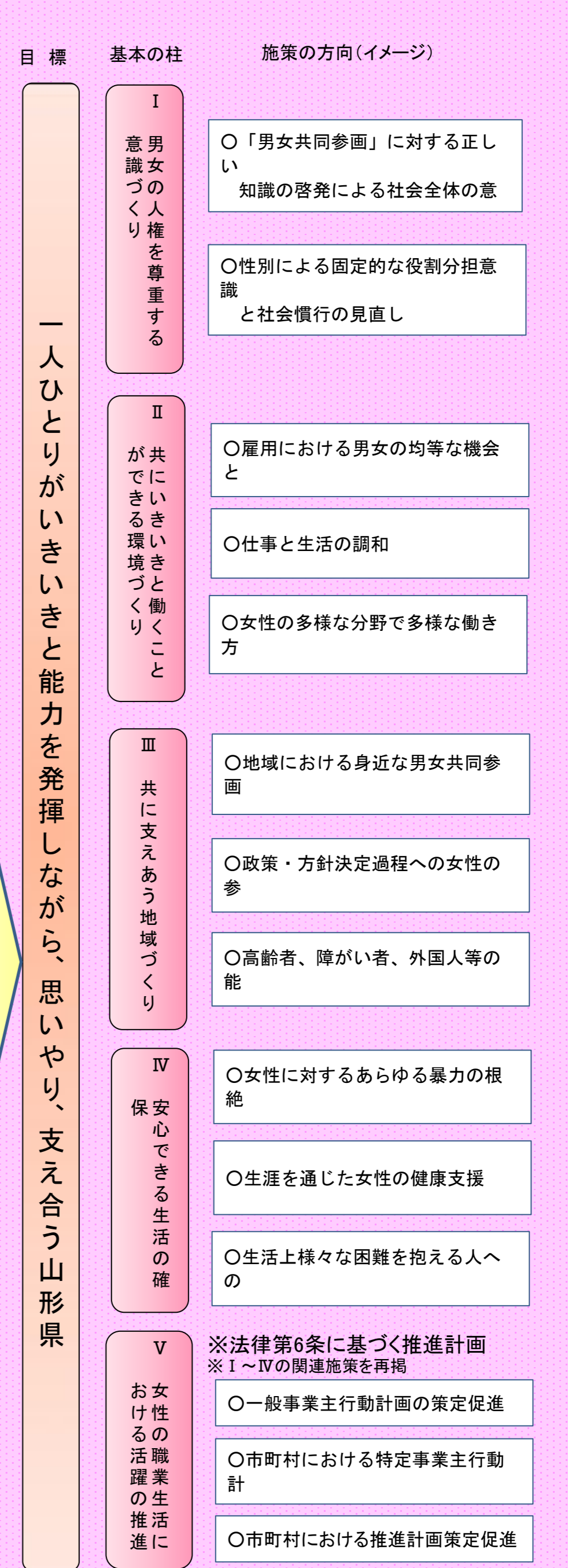
○第4次男女共同参画基本計画策定に向けたコンセプトより

- ・男性の生活と仕事と暮らしを取り巻く状況（「夫は仕事、妻は家庭」の意識、長時間労働）→男性にとっての男女共同参画を計画全体にわたる横断的視点に位置付け

○女性の職業生活における活躍の推進に関する法律

- ・特定事業主行動計画の策定・公表（地方公共団体に義務付け）
- ・一般事業主行動計画の策定（労働者300人以下）

新計画の体系



・課題となっているもの
・進んでいないもの
・さらに前に進めるために